

平成30年度 河川水質検査結果

◇採取場所 8河川(10箇所) ◇採取日 平成30年10月16日 ◇天候 晴れ

NO	河川名		採取場所	時間	水温	気温	pH 6.5~8.5	BOD (mg/L) ~2	SS (mg/L) ~25	DO (mg/L) 7.5~	大腸菌群数 (MPN/100mL) ~1,000
1	堀之内	2 田河川	和田原・吉田橋下流	10:10	16.5	20.5	7.9	0.6	1	10.2	7,900 *
2	堀之内	3 田沢川	根小屋・桜又	10:35	15.2	20.6	7.1	0.8	< 1	9.5	4,900 *
3	小出	8 明神川	小出中学校グラウンド脇	15:10	17.0	21.8	7.0	0.6	4	9.7	70,000 *
4	小出	9 大池川①	新大池川橋	13:35	16.4	22.3	7.3	0.9	2	10.1	17,000 *
5	小出	10 大池川②	桜田橋	13:45	16.2	23.0	7.4	0.6	< 1	9.7	3,300 *
6	小出	12 橋場川	伊米ヶ崎小学校裏	13:20	16.4	23.0	6.9	0.9	2	11.4	17,000 *
7	小出	13 清水川①	伊米ヶ崎小学校裏	13:10	15.3	23.0	7.7	1.0	1	11.3	330,000 *
8	広神	20 一ツ橋川	泉沢橋	14:45	16.2	20.9	7.3	< 0.5	< 1	9.2	4,900 *
9	湯之谷	21 佐梨川上流①	大沢橋	14:15	14.9	20.9	7.4	0.5	< 1	10.0	1,100 *
10	湯之谷	22 佐梨川上流②	吉田橋	14:00	15.1	23.0	7.6	0.5	< 1	10.0	1,700 *

※ 生活環境の保全に関する環境基準(河川 類型:A)

① pH : 水素イオン濃度 6.5以上8.5以下

(低)酸性、(高)アルカリ性。強い酸性やアルカリ性の水の中では普通の微生物は活動できない。水生植物、植物性プランクトンの光合成により二酸化炭素が消費されるとアルカリ側に傾く。→水生生物育成に影響

② BOD : 生物化学的酸素要求量 2mg/L以下

水中の有機物が好気性微生物により分解されるときに消費される酸素の量。有機物汚染のおおよその指標。高くなると水中の溶存酸素量(DO)が少なくなる。(有機物:生物由来の物質)→酸素消費に影響

③ SS : 浮遊物質 25mg/L以下

水中に浮遊又は懸濁している直径2mm以下の粒子状物質。粘土鉱物による微粒子、動植物プランクトンやその死骸、下水、工場排水などに由来する有機物や金属の沈殿物が含まれる。→光合成に影響

④ DO : 溶存酸素量 7.5mg/L以上

水中に溶解している酸素の量。水温、気圧、塩分等にも影響を受ける。→魚介類の生存、悪臭の発生に影響

⑤ 大腸菌群数 : 1,000MPN/100mL以下

一般的にほとんどの大腸菌自体には病原性はなく検出されても危険性はないといわれているが、糞便による影響を受けているおそれが高いことを示す。→病原性細菌による水質汚染の疑い

※検査方法によっては大腸菌群以外に土壌細菌も測定する場合がある。